

道 -ROAD-

大阪学芸中等教育学校
校長室だより

「ONE TEAM」 — 信は力なり —

街中ではイルミネーションがあちこちで見られるようになり、寒い中にもひと時の暖かさをおもひだしています。月日の経つのは早いもので、本日二学期の終業式を迎えました。二学期は、遠足、5年生ヨーロッパ修学旅行、3年生オーストラリア研修旅行、コーラスコンクール等、様々な行事や取組みがあり、多くの成果を収めることができました。そして、6年生は今まさに正念場です。これからは健康に十分留意し本番で力が発揮できるように準備してください。

さて、この2学期中に日本中を熱狂の渦に巻き込んだのは9月20日から11月2日まで日本で開催されたラグビーW杯ではなかったでしょうか。前回の2015年W杯イングランド大会まで24戦して1勝しかできなかった日本が、前回のイングランド大会の初戦で強豪南アフリカに勝利しラグビー史上最大の番狂わせと言われ、予選リーグで3勝をあげました。そして、今回は4戦全勝で準々決勝進出し、当初目標としていた初のベスト8入りを果たしました。

今年の新語・流行語大賞の年間大賞に、ラグビー日本代表チームのスローガン「ONE TEAM」が選ばれました。日本代表を率いるジェイミー・ジョセフヘッドコーチが掲げたテーマです。7か国15人の海外出身選手を含む31人はリーチマイケル主将を中心に「ONE TEAM」として結束し快進撃を続けました。今大会の結果は、年間240日の合宿を行い、苦しさや厳しさを乗り越え全力を尽くした結果で、目標に向かい本気になって取り組むことの大切さを教えられました。劇的な勝利を収めたアイルランド戦の試合前ジェイミー・ヘッドコーチは選手にこう語ったそうです。「誰も勝てると信じていない。でも俺たちがやってきたことは誰も知らない。自分たちを信じ戦おう。」そして、**自分たちがやってきたことを信じて努力し、仲間を信じられれば大きな力になるという「信は力なり」という言葉を胸に、自信をもって試合に臨んだ結果ではないでしょうか。**

ジェイミー・ヘッドコーチは「この偉業は一人の選手が何をしたということではなく、チーム全体でフォーカスした結果だと思う。」と振り返っています。これは、**厳しい壁を乗り越えるためには、一人のヒーローより、気持ちを一つにした「ONE TEAM」になることが重要だ**ということですね。今回のW杯を通じ、ラグビーの精神と文化が日本に浸透してきたのではないのでしょうか。

皆さんは、これから大なり小なり困難に立ち向かう時が来ると思います。それに立ち向かうために今回のラグビーW杯からもいろいろと学ぶことが多かったのではないのでしょうか

もう一つの話です。ラグビーW杯には「World in Union」という大会公式ソングがあり、第2回大会(1991年)から開催国の著名なシンガーにより歌い継がれています。イギリスの作曲家ホルストが作曲した組曲「惑星」の中の「木星」のメロディーをモチーフにして歌詞がつけられたという曲です。**勝敗に関わらず全ての人を受け入れ、リスペクトし世界が一つになることがとても大切である**と歌いかけています。このメロディーは、日本では平原綾香さんの代表曲「ジュピター」と同じで、6年生が昨年ロンドンの学校訪問でこの歌を披露したことが思い出されます。

さて、冬休み中に新しい年2020年(令和2年)が幕を開けます。夏には、東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。今回のW杯が終わり、海外から日本は素晴らしいホスト国であると高い評価を受けています。ホスピタリティ(おもてなしの心)の気持ちをつなげて行って欲しいと思います。

皆さんも新鮮な気持ちで新しい一歩を踏み出してください。**日々の生活に流されず、新しい年を迎えるという節目にあたり、「夢」を持ち努力することで自分の成長につなげてください。**